

II 調査結果の分析

1. 調査結果の概要

(1) 外国人観光客の属性

観光客は、「中国」、「韓国」、「台湾」、「香港」などのアジア圏からが5割である。男女比率は男性6割、女性4割、年齢構成は「20歳代」、「30歳代」が比較的多く、全体の6割を占める。また、同伴者については7割以上が、「家族」、「その他グループ」などの同伴者を伴っている。

(2) 日本国内への観光客の動向特性

旅行形態は「個人旅行」が8割、「パッケージツアー」が2割で、訪日回数は「初めて」が4割を占め、宿泊日数は「1泊～5泊」が4割を占めている。

主な訪日目的は、「東京など都市の観光」が4割弱と多く、主な目的地は「東京」が8割と圧倒的に多い。

入国前の情報収集手段は、6割が「インターネット」からで、入国後は、「観光ガイドブック」が3割弱となっている。

今回の旅行の宿泊地は、「東京」が8割、「箱根、湯河原」が2割弱で、訪問地は、「鎌倉」、「東京」、「箱根、湯河原」の順になっている。

入国時、出国時の利用空港は、いずれも「成田空港」5割、「羽田空港」4割となっている。

(3) 神奈川県内への観光客の動向特性

神奈川県内での宿泊は、「1泊」で、「ホテル」への宿泊が多い傾向である。また、県内への宿泊は、「箱根、湯河原」、「横浜」以外は、少ない結果となった。

県内での食事は、「和食・ラーメン」、「和食・寿司」、「和食・そば/うどん」の順に多く、購入土産品としては、「和菓子」が多い。

県内での交通手段は、「電車」利用が7割ともっとも多く、「徒歩」が3割、「観光バス」2割となっている。

県内を訪問した主な目的は、「自然・景勝地の見学」、「温泉/リラックス」、「横浜などの都市の観光」が多い。

県内での滞在時の満足度は8割である。対して不満度は少数であり、「案内標識・ガイド」、「情報のとりやすさ」、「食事」等に対する不満がみられた。

(4) 外国人観光客の要望等

次回行きたい訪問地は、「札幌（北海道）」、「京都」、「富士山」が多い。

県内の地名の認知度をみると、「横浜」が7割以上と多く、「箱根・湯河原」が5割、「神奈川県」は4割弱であった。

国内旅行での重要課題は、「街中や駅、飲食店等での外国語表記の充実」、「日本人の外国語に対する会話能力の向上」がそれぞれ2割弱となっている。